

末日聖徒イエス・キリスト教会 THE CHURCH OF JESUS CHRIST OF LATTER-DAY SAINTS
TOKYO JAPAN TEMPLE

日本 東京神殿

2022.5.28^{SAT}-6.18^{SAT}
OPEN HOUSE REPORT
オープンハウス・レポート



オープンハウス最終日の賑わい



元オリンピックアスリートの橋本聖子議員を迎えたスティーブソン長老と和田夫妻

日 本東京神殿のオープンハウスが、5月末から6月中旬の3週間にわたって行われた。東京神殿が竣工した1980年以来42年ぶりのオープンハウスとあって、東京神殿地区の会員たちは周りの人々へ積極的に働きかけて神殿へ招いた。この21日間に訪れた人は1万9,174人、迎えたボランティアは延べ4,500人近くに上った。これは、2022年の東京神殿再奉献に伴う歴史的なイベントの記録である。

メディアのためのツアー

穏やかな晴天に恵まれた5月28日(土)、リノベーション工事に携わった建設関係者と職員、近隣の方々のツアーを皮切りにオープンハウスは幕を開けた。週明けの5月30日(月)には「メディアデー」が催され、報道関係者が招かれた。朝日新聞、毎日新聞、宗教新聞、中外日報、夕刊フジ、ニューヨークタイムズ、サンケイ出版、NHK国際部、またフリージャーナリストなど多くの報道関係者が参加した。

アジア北地域会長会の^{わだ}和田長老夫妻、ラズバンド長老夫妻

に加え、かつて地域会長を務めた十二使徒定員会のゲラリー・E・スティーブソン長老夫妻が来日し、ゲストを出迎える。

スティーブソン長老は壇上

から、「これまで9年以上日本に住んでおり、日本をもう一つの故郷のように思っています」と日本語で語りかけた。19歳のとき福岡伝道部の専任宣教

師として初めて日本の土を踏み、社会に出てからは仕事で度々日本を訪れ、名古屋伝道部会長また地域会長会として日本に住んだ。日本文化に造詣の深いスティーブソン長老は、同じ Temple という言葉で表される日本の寺社仏閣を、神殿に通じるものとして説明する。「寺や神社も日本文化として大切なもの。わたくしも何度も訪れましたし、平安を感じる場所です。東大寺や清水寺などで、心に穏やかな気持ちを感じました。教会でも神殿を訪問して、希望や安らぎを見いだそうとします。深く考え、祈り、瞑想し、人生の大切な決断をするときも、答えや導きを求めます。

わたくしは神殿に感謝しています。お寺や神社にも感謝しています。こういった建物は人々を善い行いに導きます。わたくしたちの神殿は神の家だと信じています。神殿はわたくしたちを神様とイエス・キリストに導きます。神殿ツアーで皆さんにもこれが分かります。

家族を永遠にする特別な場所でもあります。神聖な場所、祈りの場所、家族が結ばれるこの場所に、すべての人を歓迎します。」

メディアデーには、マイクロ

ソフト米国本社副社長の^{ひろの}平野拓也兄弟も登壇した。食べ物も宗教も言語も異なる世界を股にかけてビジネスを展開してきた平野兄弟。その根底には、子供の頃から教会で育んだ価値観があると語る。「正直であること、真実を求めること、人に善を行う心を持つこと、信じて希望を持つこと、耐え忍ぶこと……すべての人が神の子供、兄弟姉妹であるという大切な原則を学んできました。これはビジネスだけでなく、普段の生活や、友人・家族と交わるときにも大切な指針となってきました。建物の基礎がしっかりしていれば、揺らぐことなく過ごせるのです。」

その後、神殿に関する映像を観賞した報道関係者は、ステューブソン長老によるガイドと、神殿担当七十人のケビン・R・ダンカン長老によるガイドの2グループに分かれて神殿の中へ案内された。^{※1}

ある人は、ステューブソン長老が寺社仏閣で感じたように、「キリスト教という自分たちと縁遠い感じがしていましたが、神殿の中に数々の和の意匠があり、心にじっくりきて落ち着きました」と感想を述べた。

各界の著名人を招待

5月30日から6月2日までは、宗教、実業、政治、外交、教育など様々な分野で影響力を持つオピニオンリーダーの招待



メディアツアーをガイドするステューブソン長老



メディアター



ナイジェリア大使館の Nnamdi 氏



壇上から話すステューブソン長老



前防衛副大臣の中山泰秀議員と



新聞の取材を受けるステューブソン長老



明治神宮の 木下龍輝権宮司と



キリスト教各宗派やユダヤ教の招待客に「主の宮」の説明をするステューブソン長老



世界仏教徒連盟のダンバジャブ副会長からモンゴルの仏画を贈られる、地域会長会のラスバンド長老

ツアーが行われた。インターフェイス（異なる宗教間協力の集まり）ツアー^{※2}には、プロテスタント各派、カトリック、ユダヤ教、イスラム教などの代表者

が参加した。また、仏教、神道、^{りっしょうこうせいはい おおもと そうか がっかい}立正佼成会、大本、創価学会、インターナショナルなど様々な宗教の人々が訪れ、神殿の説明に耳を傾けた。宗教界からのゲ

ストは、お互いの違いではなく、キリストの教えに自らの信条との多くの共通点を見いだした。

明治神宮の木下龍輝権宮司はこう語った。「神社の本殿の奥に入るには1日前からみそぎをして心身を清めます。神殿に入ったときも同じような清らかさを感じました。同じ雰囲気があります。」

和田直美姉妹は結び固めの部屋で、「神社にとって鏡は非常に大切なものだと思います」と語りかけた。「わたしたちにとっても、この結び固めの部屋の鏡はとても大切な意味を象徴しています。ここに立つと、先祖と子孫の姿を見ることができ、永遠にわたしたちのきずなが続くことが分かります。」そう伝えると、明治神宮の方々も共感してくださったという。

大使ツアーでは、ルワンダ、エチオピア、ウガンダ、ナイジェリアのアフリカ諸国と、レバノン、ハイチ、ハンガリー、スイスの大使また大使館関係者が訪問された。

政界からは、東京オリンピック・パラリンピック組織委員会会長を務めた参議院の橋本聖子議員をはじめ、多くの国会議員、県議会、市議会、区議会議員、自治体の首長、政府関係者などが訪れた。橋本議員は、1988年カルガリーオリンピック出場のためスピードスケートのトレーニングをしていたとき、教会員の家庭にホームステイ



した思い出をはじめ、教会との関わりを語ったという。

そのほか、大学教授や大学院生、教育者や企業経営者など、多数の指導的地位にある人々が神殿を巡った。^{※3}

6月3日からは一般ツアーが始まった。

日の栄えの部屋で

日の栄えの部屋ではツアーガイドは説明をしない。静寂があり、目をつむる人もいれば、天を仰ぐ人もいる。元東京神殿会長の井上 龍一兄弟は語る。「(ある方が) 日の栄えの部屋で瞑想していたら、『心の中があったかくなりました。こんな経験、初めてでした』って言われました。それが聖霊なんですよ、ってお話いたしました。」

オープンハウスビデオの日本語吹き替えを担当した劇団昂のマネージャーは語る。「日の栄えの部屋は、空気が特別な感じがしました。」吹き替えの音声収録をした録音スタジオの部長は、「本当に静かだった。録音ブースの(物理的な)『静か』とはまた違った静けさでした」と言う。「日の栄えの部屋や結び固めの部屋で、何か、手の平の上にいるような不思議な感覚がしました」と表現した人もいる。

靈感された質問

元地域七十人の中塚 祐文兄弟もツアーガイドを務めた。



カトワックやイスラム教の代表者と。中央は神殿担当七十人のダンカン長老



都内国立大学の宗教学講座の皆さん



所沢市の藤本正人市長



一般オープンハウスの模様



ボランティア控室で割り当てを受ける



続々と集まってくるボランティア

「ある方は、『自分も神様はいるんじゃないかなと思う、でも神様がいて信じていることと、信仰を持つことはどういう違いがあるんですか?』と尋

ねました。皆さんが、自分の心の奥底にある真摯な質問をなさっていました。

わたしたちが神様の元に帰るのをガイドする天使が、似た

ような気持ちを感じるんだろうな、と。まさに人生のツアー(旅)です。何かを説明していて、聞く方の眼がきらっと輝いて、この方は何かに気がつきたと分かる瞬間が何度もありました。奉献される前であっても、御霊は注がれているんだと思いました。」

ある姉妹はこう話す。「『なぜ十字架がないの?』と質問する人もいました。友人はこんな風に答えました。(主は)『今も生きているから』。……色々な質問を受ける度に、適切な答えを御霊がわたしに教えてくださり、それを通して主がその方々を特別に愛しているという気持ちを感じました。」

ボランティアの喜び

あるボランティアリーダーの姉妹は、連日200人以上の奉仕の割り当てを考えた。名前しか知らない人も多い。「様々な要因を考えながら正しく割り当てられるよう、特にカテゴリーリーダー(エントランスフォロ、ツアーガイド、神殿案内、保安警備、の4カテゴリー)を決める際は、これでいいのかと何度も祈ります。」彼らは初めて参加していきなりリーダーを任されるのだ。ある姉妹は最初、なぜリーダーになったか分からなかった。「でも『自分は神殿で働いた経験があり、神殿内の順路をよく知っている。神殿案内のリーダーに割り当

※3—オビニオンリーダーツアーの様子はニュース映像でご覧になれます



「てられた理由が分かった」と話されました。そのような経験をお持ちとは知らなかったのです。この業をすべて主が導いておられると知りました。」

最終日の6月18日(土)には2,400人が訪れた。ボランティア数も400人を超える。期間



中の最高記録だった。再奉献委員会の當眞コーディネーターはこう振り返る。「神殿では涙を流される方や、すごく感銘を受けている方、いろいろな方々がいらっしゃいます。皆さん、そういった方から喜びと力を得て、もっと奉仕したい、関わりたいと言ってくる。本当に嬉しく感じました。」◆

役員の変動

2022年5月23日から6月21日までに管理本部会員統計記録課に通知のあった役員の変動(敬称略)

- 北海道南ステーク宮の沢ワード
ビショップ: 阿部 孝彦
- 郡山地方部郡山支部
会長: 松村 邦明
- 桐生ステーク古河ワード
ビショップ: Kazuki M. Halvorson
- 金沢ステーク高岡ワード
ビショップ: 高谷 慎之介
- 京都ステーク綾部支部
会長: 平元 竜雄
- 京都ステーク茨木ワード
ビショップ: Sean P. Keanaaina
- 京都ステーク岡町ワード
ビショップ: 横尾 政明
- 大阪ステーク大阪ワード
ビショップ: 高地 正訓
- 福岡ステーク中津支部
会長: 明賀 信浩
- 沖縄軍人地方部普天間軍人支部
会長: Nathan D. Garlick

結婚カンファレンス情報 — 2022 広島ピースカンファレンス—

開催日時: 2022年10月22日(土) ~ 23日(日)
 開催場所: 広島県広島市広島光ワード/縮景園
 参加対象者: 結婚を希望している35歳以上の神殿推薦状保持者
 参加人数: 40名(男女各20名)

申し込み期日: 2022年9月20日(火)
 お申し込み先: メール hiroshimapeacec20221022@gmail.com
 お問い合わせ: 電話 090 2896 2067 (福永実行委員長)
 メール rdbqn767@ybb.ne.jp

今月のNews Headlines

● ニュースルームはこちら!

<https://news-jp.churchofjesuschrist.org>



- 改修後の日本東京神殿、一般に公開—42年ぶりに神殿の一般公開ツアーを実施 5月29日リリース
- 日本東京神殿オープンハウスに訪れる最初のゲストの方々 6月2日リリース
- 神殿の予約に関する変更 6月4日リリース
- ニール・L・アンダーセン長老、「全国YSAファイアサイド」にて日本のYSAに語る 6月4日リリース
- ゲーリー・E・スティーンソン長老、日本東京神殿オープンハウスを振り返る 6月5日リリース
- アンダーセン長老、主の業に携わるよう日本と韓国のヤングシングルアダルトに勧める 6月9日リリース
- 「もう一度あの家に行きましょう」—日本東京神殿のオープンハウスで教会員と宣教師が再会 6月10日リリース

※上記リストは日本発信または日本に関連する記事のみです。海外発信記事(日本語)も数多く配信しています。

With Elder and Sister Neil L. Andersen
Quorum of the Twelve Apostles

十二使徒定員会

ニール・L・アンダーセン長老ご夫妻を迎えて

「皆さんを必要としています！」

—コロナ禍を越えて2年9か月ぶりに十二使徒が来日—

20 22年5月22日(日)、十二使徒定員会のニール・L・アンダーセン長老ご夫妻を迎え、全国 YSA ファイヤサイドが開催された。東京神殿別館で開かれたファイヤサイドの様子は Zoom でも配信され、会場と合わせて約800人のYSAが使徒の言葉に耳を傾けた。壇上にはアジア北地域会長の和田貴志会長ご夫妻、第一顧問のジェームズ・R・ラズバンド長老ご夫妻が並ぶ。

和田直美姉妹：違いを伝える

「今日は麻布あざぶにイエス・キリストの使徒が来られています。本当にわたしたちのことを神様が愛しておられて、素晴らしい時間を与えてくださいました。」和田姉妹は2年9か月ぶりの日本への使徒の訪れに対し、心からの感謝を表した。

17歳のときに初めて教会に足を踏み入れたという和田姉妹。友人とともに英会話に参加すると、何とも言えない雰囲気を感じられた。「今思うと、……御霊を感じたんだと思います。」続けてセミナーにも参加。内容はまったく分からなかったが、

その場に集う人々から違いを感じた。彼らは自分よりも、人生についてよく知っているという印象を受けたという。

機会を捉え、自分が人生の目的を知っている理由、福音によって自らが築かれてきたということを周りの人々へ紹介するようになると、和田姉妹は YSA に呼びかけた。

和田貴志会長：主に叫び求める

和田会長はこの数か月間、アンダーセン長老とともに働く機会があったという。「彼と話をしていると、本当に御霊とキリストの愛を感じます。わたしたちも……そういう弟子になれたらと思います。」

祈りの答えを求めている YSA に対してヒントになる話ができればと、旧約聖書から分かち合う。荒れ野にあって飲み水を得られなかったモーセの民が、このようにつぶやく場面がある。「わたしたちは何を飲むのですか。」※1 モーセの民と同じく、聖約を交わしているわたしたちも、様々なチャレンジに遭遇し、苦い水を経験することがある。

モーセが「主に叫んだ」※2 末、主に示された木を投げ入れると、水は甘くなった。「姉妹たち、兄弟たちが、本当に主に

叫んだら、どんなことが起こるでしょうか」と問いかける和田会長。

人生にあって困難にぶつかるときには、モーセのように祈り、叫び求めるようにと勧めた。わたしたちは、主から頂くものを通して物事を解決できるように努め、主の導きを求めることができる。

「聖霊が……必要なことを教えてくださいと約束します。イエス・キリストの福音は、わたしたちの苦い水を甘くし、わたしたちが永遠に飲める水を与えてくれます。」

アンダーセン姉妹：主の僕しもべの声

「今晚のことは、忘れられない思い出になるでしょう。」アンダーセン長老とうなずき合うアンダーセン姉妹。世界のどこにいても、キリストの弟子でいるのが容易でない時代において、日本ではとりわけキリストを信じている人が少ない。そういった環境下で信仰を保っている YSA たちを「尊敬していますし、ともに集えることを特権だと感じています」と語った。

エペソ人の手紙にはこう書かれている。イエス・キリストの福音は、「……使徒たちや預言者たちという土台の上に建てられたものであって、キリスト・イエスご自身が隅のかしら石である。」※3

30年以上前、アンダーセン長老がフランスで伝道部会長をしていた頃のこと、夫妻は伝道部指導者セミナーのためにハンガリーへ赴いていた。その日の集会在終わり、ゲッレールトと呼ばれる山※4に登っ



和田直美姉妹



和田貴志会長

※1—出エジプト15:23-24参照

※2—出エジプト15:25参照

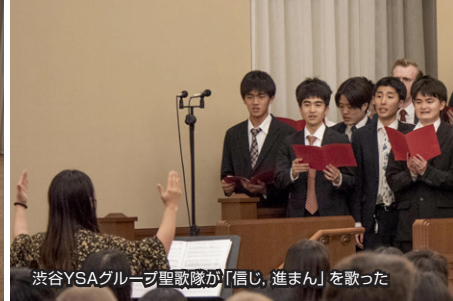
※3—エペソ2:20

※4—ハンガリーの首都ブダペスト、ドナウ川沿岸にある標高235mの山

■本へのメッセージ



東京神殿別館には231人のYSAが詰めかけた



渋谷YSAグループ聖歌隊が「信じ、進まん」を歌った

たアンダーセン夫妻。当時、十二使徒であったネルソン長老も同行していた。

この小さな山から見下ろすと、共産主義を象徴する赤い星を建物から取り除く人々が見えた。^{※5}これは歴史的にも意義深い、驚くべき光景であったが、ネルソン長老は次のように述べたと言う。「皆さんが今日にしている光景は、これから起こることに比べたら、ほんの些細なものです。」その言葉は、アンダーセン夫妻に大きな印象を残した。



ゲッレールトから望むドナウ川とブダペスト市街
Photo by Gabor Eszes

フランスに戻って3週間後、ある集会に向かう車中で、ラジオから信じがたいニュースが飛び込んできた。ベルリンの壁が取り去られたというのだ。思わず顔を見合わせたというアンダーセン夫妻。「ベルリンの壁が崩壊することを、世界は知りませんでした。しかし神は……御存じだったのです。そして、神の預言者、聖見者、啓示者の一人を通して、わたしたちは奇跡を目にしました。」

聖文にはこう記されている。「主なるわたしが語ったことは、わたしが語ったのであって、わたしは言い逃れをしない。……わたし自身の声によろうと、わたしの僕たちの声によろうと、それは同じである。」^{※6}

心と思いを開いて、アンダーセン長老の話に耳を傾けるようにと呼びかけるアンダーセン姉妹。「皆さんに何を語るべきか、彼が深く考え、熱心に祈ってきたことを知っています。その声に耳を傾けると



壇上で話すキャシー・W・アンダーセン姉妹



開会直前、暮色に包まれた東京神殿別館の会場へと急ぐYSA

き、わたしたちは、自分たちに向けられた主のメッセージを耳にしていることになりました。……夫は主イエス・キリストの使徒です。」

アンダーセン長老：霊的な基

結婚して47年になるというアンダーセン夫妻。「妻は少し小柄な女性ですが、非常に大きな霊を宿しています。」美しく、知性にあふれ、料理上手な素晴らしい母親であると、姉妹の特質を数え上げ、満面の笑みを浮かべながら絶賛する。「しかし、こういったすべてにまさって、わたしは彼女の、キリストに対する信仰を愛おしく思っているのです。」

永遠の伴侶を探すに当たっては、信仰ある人を求めるようにと勧める。「信仰が年を取ることはありません。信仰は常に胸躍るものであり、人を引きつけるものです。もし結婚生活5千年を迎えても、彼女は信じられないほど美しく見えるでしょう。」

「わたしたちは皆、霊的な基を高めておく必要があります。」毎週のように大管長会、十二使徒定員会とともに過ごすアンダーセン長老の霊は、常に高められているという。「わたしたちは、互いを必要と

しているのです。」改心は個人的なものだが、良い影響を及ぼし合うことによって、霊がさらに高められることを約束した。

We Need You

去年の9月頃から、日本に来る機会がうかがっていたというアンダーセン長老。コロナウイルスに関わる制約を乗り越えて、ついに日本に足を踏み入れることができた。「皆さんの顔が見えるように、マスクを外してくださいませか。」長老はしばしの間、日本の聖徒たちと視線を合わせ、微笑みを浮かべた。「皆さんは美しいです。一部の方は、ひとときわ美しいです。」愉快的なコメントに、会場は笑いに包まれた。



「皆さんを必要としています。」祈りを通して、最も伝えたいと感じたメッセージがこれだという。「キリストの教会におい

L6 ※5—1989年5月、ハンガリーはオーストリアとの国境を開放し、6月には共産党一党独裁制を放棄。その後、多数の東ドイツ市民がハンガリーを経由して西ドイツへと亡命する。これが1989年11月9日のベルリンの壁崩壊へとつながった

※6—教義と聖約1:38



「皆さんが必要です」と両手を広げて招くアンダーセン長老



て、皆さんが必要なのです。」宣教師のように、道行く人々の足を止めるよう求められているわけではない。「どうしてそんなに幸せそうなの?」「これほどの困難な時代を、どうやって乗り越えているんだい?」「そんなに親切なのはなぜですか?」そう尋ねられるとき、このように返してほしいと語るアンダーセン長老。——「イエス・キリストを信じているからです。」

人生における選択というのは、富へ向かうか貧困へ向かうか、あるいは有名になるか、無名で終わるか、といった軸に集約されるものではない。「善であるか、悪であるか、ということに関わる選択なのです。イエス・キリストの福音は、そのことを理解できるように助けてくれます。」

聖徒はどの地にも

「皆さんが必要です。皆さんの霊が必要です。」主は、回復された福音に何兆もの人が改宗するとは語られなかった。しかし、主を愛する義にかなった人々が、すべての国と文化において、あらゆる人種や言語において、必ず存在するということについては、繰り返し述べておられる。「主イエス・キリストの使徒として、このことは、わたしたちの肩に重くのしかかっています。」

アンダーセン夫妻は来月、アフリカ西部にある小さな島々、カーボ・ベルデを訪問する。1997年、島で教会が設立されて間もない頃には、ほんの一握りの聖徒しかいなかった。ところが6月には、カーボ・ベルデに神殿が奉献されるという。「これは奇跡です。」

教会の発展速度は、地域によって差がある。アンダーセン長老自身はフランスで伝道し、後には伝道部長も務めた。フランスには、何百年も前からキリスト教があるが、キリストを信じている人はごくわずかだという。美しい大聖堂はあっても、信者が少ないために、政府が建物を管理しているほどだ。

一方ブラジルでは、宣教師たちが、家族全員に次々とバプテスマを施していく。ブラジルでは発展が速く、フランスでは遅い、その理由については説明できないと語るアンダーセン長老。それでもフランスには、素晴らしい末日聖徒たちがいる。「主が戻られるとき、彼らは主を迎え入れる場にいることでしょう。」

「わたしたちの声に耳を傾ける人がいるかぎり、そこへ赴きます。なぜなら、イエスがキリストであられることを知っているからです。これまで地上に生を受けたす

べての人が、……イエスが主であられることを認めるときが来ます。」再臨がいつになるかは分からないが、アンダーセン長老は、主が早く来てくださるよう度々祈りをささげているという。

「わたしが皆さんと同じ年代の頃にはなかった確信を持って、お伝えします。イエスはキリストであられます。……このことを、確信をもって知ることができるというのは、素晴らしいことです。」

再臨を思い描く

70歳を迎えたアンダーセン長老。自分を駆り立ててくれることの一つは、救い主が再び来られるときのことを想像することだという。数年前の大会説教では、主が再臨される場面を思い描き、書き留めている。

主は「『天の雲の中に、力と大いなる栄光とをまとって、すべての聖なる天使たちとともに』来られるのです。……皆さんやわたし、あるいはわたしたちの後に続く『聖徒たちは地の四方から出て来』て、『身を変えられて、主に会うために引き上げられ[ます]』。」^{※7}

主は「日本に来られるでしょうか。もちろん来られるでしょう。……主は日本の聖徒たちを愛しておられます。」ここ日本に多くの聖徒が集うようになることを、どのように知ることができるのか。「主は御自分の家を、日本に置かれました」と語るアンダーセン長老。

沖縄では神殿が建設中であり、東京神殿は間もなく再奉献を迎える。札幌と福岡にも、主の家が建てられている。「主が再び来られるとき、この美しい島国の全地に、義にかなった人々がいることでしょう。」

「わたしたちは皆さんを必要としていま

※7—ニール・L・アンダーセン「御国が来ますように」
2015年4月総大会説教



す。この特別な時にあって、皆さんを必要としているのです。……信仰に対して真剣に取り組んでくださり、感謝します。祈りに信仰をもってくださり、感謝します。進んで戒めを守ろうとしてくださり、感謝しています。聖なる御霊の声を信頼してくださり、感謝します。これらは、この世の人々がほとんど知らないでいる事柄です。しかしながら、皆さんは御存じであり、わたしも知っています。」

世の光として

マタイ書にある主の言葉から、日本に思いを馳せたというアンダーセン長老。「あなたがたは、世の光である。……あなたがたの光を人々の前に輝かし、そして、人々があなたがたのよいおこないを見て、天にいますあなたがたの父をあがめるようにしなさい。」^{※8}

4月の総大会では、ネルソン大管長も同じく、「皆さんが必要です」というメッセージを伝えている^{※9}。「伝道に赴く、若い男性の皆さんが必要です。これは、神権に関わる責任です。」姉妹たちを「お迎えするのは素晴らしいのですが、誰一人として、プレッシャーを感じることがないようにと願います。若い男性の皆さんには、プレッシャーをかけたいと思います。」満面の笑みで語りかけるアンダーセン長老に、笑いが返ってくる。

生ける預言者

先日、ヤングアダルトに向けて語られたネルソン大管長の説教を紹介したいと話すアンダーセン長老^{※10}。「大管長の説教を聞いてくださいますか？ 本当に素晴らしい説教です」と熱心に勧める。アンダーセン長老自身、ネルソン大管長の言葉に主の力、啓示を感じたという。

教会機関誌の誌面に載った後は、説教を聖典に挟み、思い起こすようにと勧める。

ネルソン大管長がアンダーセン長老と昼食をともにしていたときのこと。これまではいつも一番若い立場であったのに、自分は歳を取った、と口にされた。

9月生まれの大管長は、9月に新学期が始まるアメリカの学校において常に、クラスで一番若い生徒であった。加えて、非常に優秀であった大管長は、4年生の年齢で6年生のクラスに出席。高校を首席で卒業した際には、周囲の人々が18歳であったのに対し、大管長は16歳だった。大学でも飛び級をして22歳で医師となる。一方、両親が教会に活発でなかったため、ネルソン大管長がバプテスマを受けたのは16歳のときだった。

来る9月で98歳を迎えるネルソン大管長。アンダーセン長老は、高齢の大管長の様子について尋ねられることがあるが、過去4年間、ネルソン大管長の知的能力が衰えてきていると感じたことはない、と断言する。「自分の知能が衰えてきていることは分かりますが」とユーモアを添えつつ、「間もなくとばりを越えてしまう程の年齢でありながら、知的、身体的に良好な状態にある主の預言者をいたしているとは、なんと素晴らしい贈り物でしょう」と感謝を表す。

大切な称号

ネルソン大管長は大切な真理について説いた。だれもがやがて死ぬが、キリストのおかげで皆が復活し、不死不滅の状態になった末、裁きの日が訪れるということだ。現世は「自分が永遠にどのような生涯を送りたいかを定める時期」であることが強調された。

続けて、自分が何者であるかという真

理を知ることの大切さを教えたネルソン大管長。この世には、ポジティブなレッテルもあれば、マイナスのレッテルも数多く存在する。大管長にとって最も大切な称号は、神の子供であること、聖約の子であること、そして、イエス・キリストの弟子であることだ。この説教を「ご覧いただけますか？ 読んでいただけますか？ 絶対に後悔しませんから」と、再び聴衆に呼びかけるアンダーセン長老。

主は生けりと知る

「今晚皆さんに語ることのできる、最も大切な事柄は、イエスがキリストであられると、わたしは知っているということです。」信仰を強めるために行う、どんな事柄であれ、時間の無駄とはならない。また、悔い改めに際してどんな努力をしたとしても、それが永遠にわたる祝福となることを約束する。「非常に神聖な経験から、忘れたい瞬間から、決して否定することのできない思いから、主が生きておられることを知っています。」

「日本のヤングアダルトの皆さんに祝福を残します。……わたしが今日使ったこのフレーズ、『皆さんを必要としています』が、その心に留まりますように。……主が再び来られるとき、皆さんが幕のこちら側にいようと、彼方にいようと、天の雲の中で、わたしたちは再び出会えることでしよう。……イエスはキリストであられます。わたしはこのことを、主の聖なる御名によって宣言します。」

壇上を降り、会場内のYSA一人一人と握手を交わしていくアンダーセン長老。手が届かない人々にも微笑みかけ、手を振って歩いた。その幸福に満ちた表情、熱意あふれる説教は、日本のYSAに力強く響いたことだろう。◆

